

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

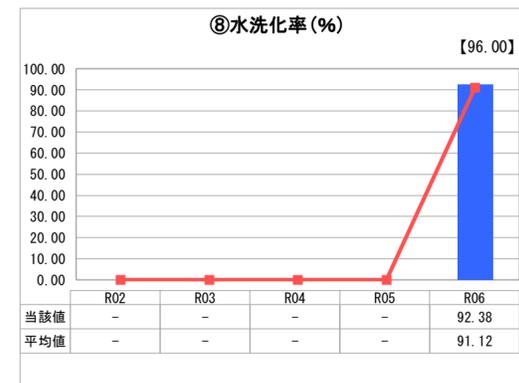
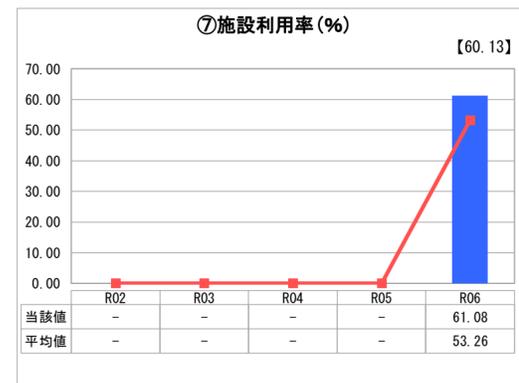
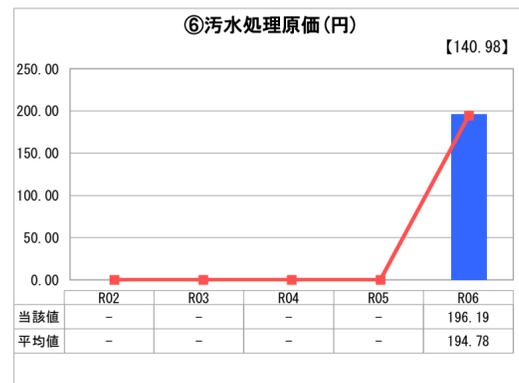
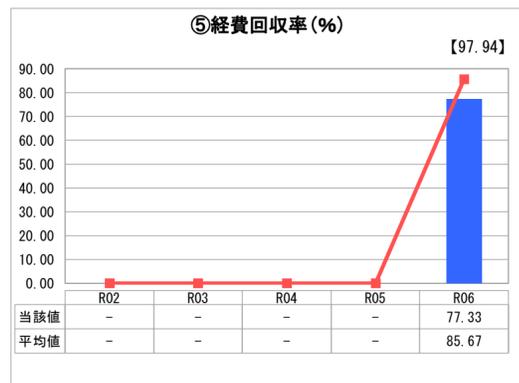
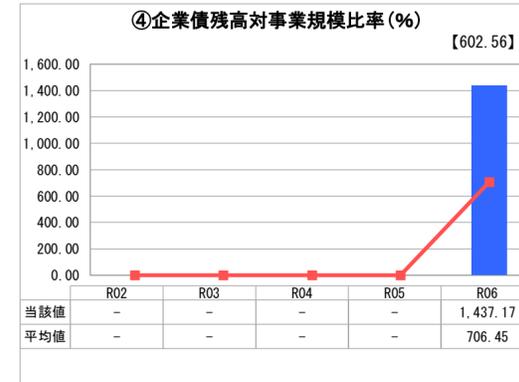
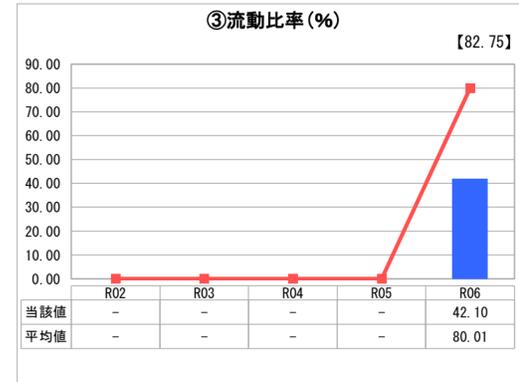
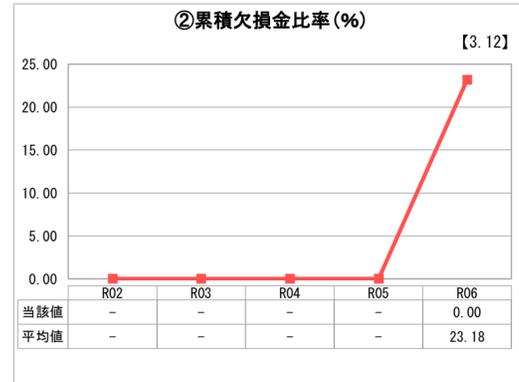
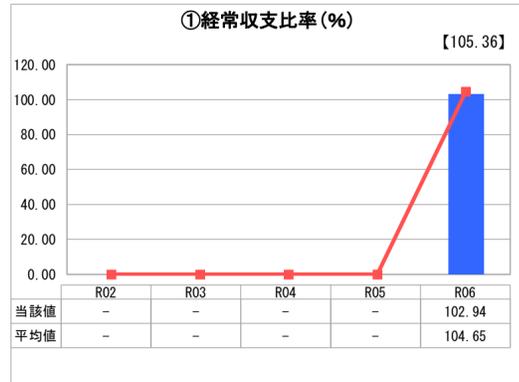
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	59.42	86.57	72.72	2,783

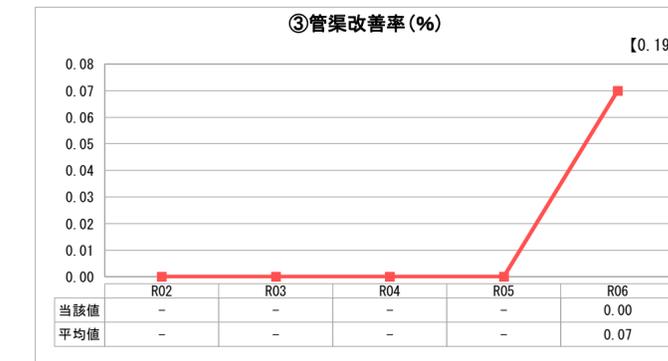
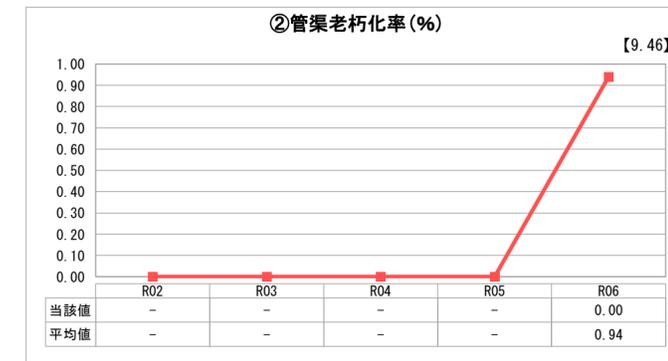
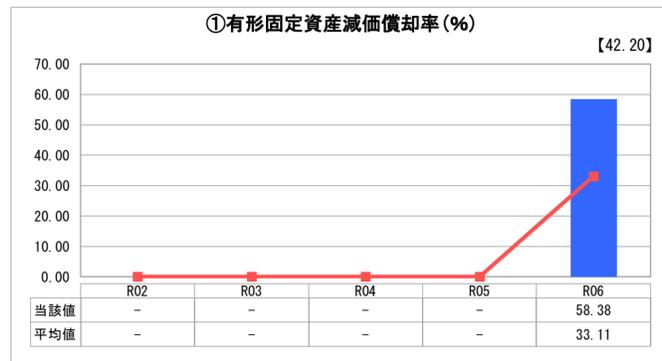
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,056	253.88	82.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,071	8.24	2,193.08

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」は100%を上回っているが、基準内繰入金による影響が大きく、営業損益では赤字となっている。今後は、使用料収入の減少や維持管理費等の増加により、ますます厳しい経営状況が見込まれるため、使用料改定の検討を含めて経営安定化を図り、収益的収支比率100%以上を目指していく。

②累積欠損金は令和6年度に公営企業会計に移行したため、無い。

③流動比率は交付税対象となる企業債償還分が大きく、基準内繰入金で対応可能。その他の流動負債に対する現金は確保できている。

④「企業債残高対事業規模比率」は、平成初期の建設工事に伴う企業債が大きく、令和12年度以降急激に減少していく見込みである。

⑤⑥「経費回収率」は100%を下回っており、「汚水処理原価」は高い水準となっている。物価高騰及び人件費の増に伴い今後も更に維持管理費が増加していくことが見込まれ、かつ人口減少に伴う有収水量の減少も見込まれるため、効率的な維持管理の方法など有効な対策を考えていく必要がある。

⑦「施設利用率」は、今後も人口減少に伴う有収水量の減少が見込まれることから、施設のダウンサイジングや農業集落排水の統合等有効な対策を考えていく必要がある。

⑧「水洗化率」は、大きな変化はない。使用料収入を確保するためにも、水洗化率100%を目指して下水道接続促進を続けていく。

### 2. 老朽化の状況について

昭和52年の事業創設以来約50年が経過しており、管路や設備については老朽化が進んでいることからストックマネジメント計画等に基づき計画的に施設の改築、更新、長寿命化を進める必要がある。また、WPPPの導入についても検討し国の交付金等を活用しながら老朽管路等の耐老化を進めていく必要がある。

### 全体総括

令和6年4月1日から公営企業会計へ移行した。人口減少に伴い、下水道使用料収入が長期的に減少していくことが予想されるが、維持管理費は増加していくため、厳しい経営環境に置かれることが予想される。また、農業集落排水事業との接続の検討などの課題もある。

適切な維持管理に努め、必要な施設整備・更新を着実に推進し、将来の下水道サービスを安定的に提供していくための費用を見込みながら、引き続き財政基盤の強化に努め、中長期的な視点に立って財政運営を行っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。